

基礎ぐい工事の工事監理の状況報告

建築主事 _____ 様

令和 年 月 日

この書類に記載の事項は、事実と相違ありません。

工事監理者氏名 _____ 印

- 1 工事監理方針を決定するにあたって、以下の事項を実施しました。
 - (1) 地盤条件や施工上の留意事項等
 - ・支持層の位置等が複雑な地盤であるかどうか、支持層の判断根拠、敷地内の既存ぐいの有無やその処理状況等の地盤情報やくい種・工法の特徴等の施工上の留意点を把握しました。
 - ・建築主、設計者、工事監理者、工事施工者で(1)の地盤情報や留意点について事前に情報共有を図りました。
 - ・設計内容等に疑義等がある場合は、建築主に報告し、設計者に確認するなど必要な対応を行うこととしました。
 - (2) 工事施工者の施工計画
 - ・元請と下請の役割分担、ぐいの支持層への到達等の技術的判断方法、施工記録の確認方法、施工記録が取得できない場合の代替手法等が適切に定められているか否かを把握しました。

- 2 当初の計画どおりに施工できない場合に以下のことを行いました。
 - (1) 支持層の位置の違いが判明するなど当初の計画どおりに施工することが妥当ではない状況が生じた場合、建築主への報告や、関係者間での協議等を行いました。
 - (2) 当初計画どおりに施工できない場合の協議方法については、関係者間で共有を図りました。

- 3 以下の方法により工事監理を実施しました。(該当するチェックボックスに「レ」マークを入れて下さい。)
 - (1) 立会い確認
 - 試験ぐいについては、施工に立ち会って、ぐい長等をはじめ、必要な項目について確認するとともに、工事施工者による施工管理のもとで設計図書どおりに施工されることを確認しました。
 - 本ぐいについては、設計図書等により確認した地盤の状況等を踏まえ、その施工に立ち会って確認するぐいを適切に抽出して決定しました。
 - 本ぐい工事の施工中においても、試験ぐいの結果や実際の地盤の状況等を踏まえ、適宜、立会い確認するぐいを追加しました。
 - (2) 書類確認
 - (1)により立会い確認を行うぐい以外のぐいの施工については、工事施工者の作成する自主検査記録等に係る書類確認により確認を行いました。
 - 工事施工者の実施する施工記録の確認等が適正に行われていないと判断される場合には、必要な範囲で工事施工者に対し指摘し、建築主に報告等するとともに、立会いによる確認を行いました。